



## りょう太と鬼の子キバ

土佐の民話『海に沈んだ鬼』より

土佐の久礼、今の四国の高知県に伝わる昔話です。黒潮の海に面した久礼は、カツオやサバやイワシなど、海の幸に恵まれた漁師の村でした。

ある日のこと、男の子とおじいさんが海の見える高台にあるお墓にお参りしていると「何をしとるんじゃ」と声をかけられました。振り向くと、そこには赤い顔をしてツノが一本、キバを光らせた鬼の子どもが立っていました。おじいさんは「こ、この子の両親が、こ、この間の嵐で高波にさらわれて、い、命を落としたので、その墓参りじゃき」と言うが早いか、男の子の手を引いて「オ、オニが出たじゃあ！」と、こけつまろびつ逃げて行きました。

山の奥の洞穴に帰った子鬼は父鬼に「おとう、タカナミつちや何じゃ？」とたずねました。父鬼は「嵐のときに海からくる大きな波のことじゃ」と答えました。そして子鬼に「里には下りるな、二度と人間に近づいたらいかんぜよ」と言い聞かせました。それでも次の日、子鬼が再びお墓のある高台に行くと、今日も男の子が墓参りをしています。子鬼が声をかけると、男の子は振り向き、怖がりもせず「やあ」と笑ったので、子鬼も「やあ」と返すと、隣にしゃがんで手を合わせました。男の子が良太と名乗ると、子鬼は父鬼に「ぼう」と呼ばれているが名前はないと言います。良太はキラリと光るキバを見て「じゃあ…キバと呼ぼう！」と言いました。

人間の良太と小鬼のキバ、ふたりはたちまち友達になりました。

洞穴に帰ったキバが良太と友達になったことをうれしそうに話すのを、父鬼はひどく怒って、黙り込んでしまいました。…そのとき、ロウソクの灯がかすかに揺れました。すると父鬼は「嵐だ、嵐が来る」とつぶやきました。「たいへんだ！」と叫んで外へ飛び出そうとするキバを引きとめ、父鬼は金棒をつかむと、浜辺に向かって山を下り始めました。キバもあわてて後を追いかけてます。

良太の住む浜辺の村には、また高波がやってくるのでしょうか。そして、海に向かったキバと父鬼は、一体どうなってしまうのでしょうか……。

### ■ごあいさつ

なぜ子どもは人形劇が好きなのでしょう？

どうしてあんなに無心になって人形劇を楽しめるのでしょうか？

たぶん、人形にはもちろん、森の木々にも、動物たちにも、石ころにまでも命や心があると信じているからです。

あまりに早く、科学万能の世の中に放り出されてしまった子どもたちの心は、乾いています。

やさしさは、人間や万物が生命の営みを共有していると感じる気持ちが源です。

人形劇のもつ不思議な力は、きっと子どもたちを空想の世界で遊ばせることでしょう。

私たちは子どもたちをもう少し長く、ファンタジーの世界にとどめておいてあげたいと思っています。



お問合せ・お申込みは…

# とらまる人形劇団

劇団員募集中！

詳細はHPで…

一般財団法人とらまる人形劇研究所

〒712-8014 岡山県倉敷市連島中央1丁目11-7

TEL 086-486-1305 E-mail: puppet@toramaru.link

FAX 086-486-1306 http://toramaru.link



### ■上演の手引き

- ・会場に特別なステージは必要ありません。
- ・舞台には間口 5.4m × 奥行 4.5m × 高さ 2.7m 位のスペースが必要です。
- ・上演に必要な機材はすべて持ち込みます。
- ・電気の容量は 20A (アンペア) 程必要です。
- ・上演効果をあげるため、暗幕をご用意下さい。
- ・上演時間は約 60 分で、準備に 90 分、片付けに 60 分程度かかります。
- ・1 回の公演定員は 150 名までが適当です。
- ・上演料は観客数、距離によって異なりますので、お問い合わせ下さい。
- ・ご予約はお早めに……。

### ■とらまる人形劇団とは…

2003 年からの 10 年間、香川県東かがわ市にあった日本で唯一の人形劇学校“パペットアーク”。この学校は財団法人とらまる人形劇研究所によって運営され、様々な取り組みを行ってきました。「とらまる人形劇団」はその人形劇学校の卒業生によって 2005 年に財団附属の専門人形劇団として旗揚げし、2013 年 4 月から岡山県倉敷市に拠点を移しました。今年で結成 21 年目を迎えます。人形劇表現の追求と、地域に根ざした活動を目指す「とらまる人形劇団」に、どうぞご期待下さい。

上演や製作の様子は SNS にて  
随時更新中！ぜひご覧下さい。

